

「アワビ」「高価な貝」漁獲アップを

年間10万個放流

「知っている貝の仲間は何？」と聞かれれば、高価なアワビを思い浮かべる方も多いと思う。国内でとれるアワビ類は6種類(クロアワビ、エゾアワビ、メガアワビ、マダカアワビ、トコブシ、フクトコブシ)で、富山県内で漁獲されるアワビ類はクロアワビ、エゾアワビ、メガアワビ、トコブシである。アワビ類は主に潜水漁業により漁獲され、富山県全体では年間2、3トン前後の漁獲量である。

富山県では、この高価な貝の漁獲量を増やそうと1979年以降、主に県栽培漁業センターで生産された、クロアワビの北方系とされるエゾアワビの種苗(殻長約3cm)を放流してきた。現在は黒部市を除く滑川以東の4市町において、年間10万個前後が放流されている。種苗は船上から、又は潜水により海中の岩場などに放流される。放流後、約3年で殻長が10cm前後となり漁獲される。1998年に魚津市で実施した調査では、漁期当初(6月)に漁獲物の7割、漁期末(8月)に3割を放流貝が占めていた。しかし、放流後の潜水調査時に、カニ、タコ、ヒトデ類等による捕食などが原因で死亡したと考えられる種苗の死殻が大量に回収されることもある。このような捕食者による減耗を少しでも避けるため、放流の場所・時期・密度の検討が欠かせない。また、アワビの餌となる海藻が豊富に存在する藻場の維持も重要である。(浦邊清治)



放流されるエゾアワビの種苗